24年の世界計画、980万台へ

トヨタ自動車が2024年（1～12月）の世界生産計画を従来の約1030万台から約980万台に引き下げたことが8日、分かった。車の量産に必要な「型式指定」の認証不正を受け、6月から「ヤリスクロス」などの生産を停止している影響が出た。23年は初めて1千万台を超える約1003万台を生産したが、4年ぶりの前年割れとなる。

トヨタは生産停止による落ち込みを補うための挽回生産も検討しているが、中国における現地メーカーとの競争激化など国内以外でも不透明な要素が多く、1千万台超の当初計画達成は容易ではないと判断したとみられる。

生産を停止しているのは、ヤリスクロスのほか「カローラフィールダー」「カ

トヨタの世界生産

トヨタ自動車は本社のある中部のほか、東北や九州などに生産拠点を置き、海外各地にも工場を持つ。海外生産は日米貿易摩擦を背景に1980年代から急速に拡大した。国内では、雇用維持や人材育成の観点から300万台規模の生産体制を維持している。新型コロナウイルス禍で一時落ち込んだが、新車の堅調な需要や半導体不足の解消を背景に急回復。2023年は過去最高となる約1003万台を生産した。

交通省が出荷停止の指示を解除したことを受け、9月初旬に再開する見通しだが、人気車種の生産が約3カ月にわたり滞る事態に陥から8月1日まで生産を停止。新型「プリウス」は、リコールへの対応のため4月から6月まで2カ月以上生産を停止していた。

ホンダは8日、手軽な移動手段として利用される「原付一種」の電動二輪車をヤマハ発動機に供給すると発表した。相手先ブラン

レトルトで「伝統カレー」

岐阜グランドホテルが販売、好評

岐阜グランドホテル（岐阜市長良）が4月から販売しているレトルト食品「伝統カレー」が好評だ。

岐阜グランドホテルの味を再現したレトルト食品「伝統カレー」をアピールする担当者＝岐阜市神田町、岐阜商工会議所

ホテルレストランで長年にわたって客に愛されてきた奥深い味わいを忠実に再現しており、担当者は「ホテルの味を自宅で楽しんでほしい」とアピールする。

カレーは展望レストランやモーニングビュッフェで提供しており、長年受け継ぐレシピを基に、ホテル開業60周年を機に商品化を企画した。外部の食品メーカーが製造し、価格は1個600円。ホテルのほか、岐阜関カントリー倶楽部やゆまがたゴルフ倶楽部、岐阜商工会議所の各レストランで取り扱い、販売個数は月平均約100個と順調に滑り出した。

月200個の販売を目標に掲げ、商品PRに力を注ぐ。担当者は「お好みの具材を加えてさまざまな楽しみ方ができる。ホテルの味を広めたい」と話す。

ぎふ経済

音質追求 世界が評価

顧客の要望に応じ仕様変更

ムジカコーポレーション（大垣市）

岐阜を売り込め

緑豊かな山あいに構えた小さな会社から、世界各国に製品を送り込む音響機器メーカーのムジカコーポレーション（大垣市上石津町）。大胆な配色や素材、顧客の要望に応じたカスタマイズなど、大手とは一線を画すものづくりと音質で支持を広げてきた。「なんでもできるけど質の低い機器ではなく、ニーズを的確に捉え、できるだけ品質を高めたい」。眞壁征生社長(55)の思いは強い。

「音がいいよね」。7月下旬、米国から同社を訪れた大学教授の男性は目を輝かせた。3年ほど前、「らいちょう」という名のムジカのアンプと出合い、音質の良さにほれ込んだという。過去にも同社を訪れており、今回は勤務先の学生も連れてやって来た。

同社が主力とするアンプ類は30種類以上。レコードプレーヤーやスピーカーなど技術交流のある海外企業の製品と組み合わせたオーディオセットも提案する。個人向けのほか、業務用機材は人気バンド「サカナクション」など数々の有名ミュージシャンがコンサートで使用する。

一般的に黒や銀など地味な色が多いが、赤や青など大胆な配色も用意し、文字や目盛りを排したシンプルなデザインと直感的な操作性を追求する。天板にインドの御影石やイタリアの大理石を用いた製品もある。海外で人気の防音ログハウスも扱い、オーディオルームやホームシアタールームとして提案する。

ムジカ製品は特に海外で評価が高く、これまでに38カ国以上に輸出。近年は東欧やアジアの個人客から直接問い合わせが来ることも増えた。10年以上続ける眞壁社長のブログも人気で、総アクセス数は640万を超え、2割近くは海外からのアクセスだ。

強みは「カスタマイズにある」と眞壁社長は語る。「例えば車を買う時はシートやボディーの色、タイヤの種類などを選べる。でも音響機器はメーカーがカタログに載せたものをそのまま買うのが一般的。当社は端子のグレードを上げたり、ボディーカラーを変更したり、できるだけ客の意向に沿い、国ごとの仕様変更もできる」

自動車や航空機業界で高い独自技術を持った中小企業が県内に多数存在していることも、ムジカの支えだと眞壁社長は言う。「例えば車の部品は命に関わるし、気温など環境変化への耐久性も高い。品質が良く信頼できる技術であれば、別業界の部品でも活用する」。デザインや設計を自社で行い、20、30社ほどある地域の協力工場で製造し、再び同社で最終組み立てを行い、1台1台の音質を確認した上で出荷する。

今後もブログやイベントなど顧客との接点を増やし、意見や要望を製品開発に生かすと眞壁社長。「ニーズを的確に捉え、より良い製品作りに反映させることで、会社としてさらなる成長を目指す」

（宮本真）

ムジカの音響機器について説明を受ける米国からの訪問客＝大垣市上石津町一之瀬、ムジカコーポレーション

世界38カ国以上に製品を販売してきたムジカコーポレーション＝同

【会社概要】2002年設立、04年にイコライザーなど4製品を発売。国内外の個人向け音響機器と、国内のスタジオやコンサート向けの業務用機材を製造、販売するほか、イベントの企画運営も手がける。「ムジカ」とはラテン語で「音楽」の意。英語よりも幅広く世界に通じる言葉として選んだ。従業員は社長ほか5人。